

利用者目線で交通まちづくりを考える ～NPO 法人ゆうらんの取組について～

理事長 松本公洋

1 団体概要

当団体は札幌を拠点とし、公共交通をはじめ人々の移動に関する諸問題の解決をミッションに、福祉や環境など分野の枠を超えて活動しています。主な活動は、札幌市公共道路線図「なまら便利なバスマップ」や web 等による情報発信、実践的な調査・研究、コンサルティング等を含むその他の活動の3つです。

設立当初は、公共交通全体の利用促進を第一のミッションに掲げていましたが、その後、交通バリアフリーや過疎地における移動など、その対象を徐々に拡げています。

現在、会員数は 40 数名の小さな団体です。

表 沿革・主な活動実績

沿革・主な活動実績			
2004年 6月	任意団体として設立	2010年 8月	「バスマップの底力」(全国バスマップサミット実行委員会編著)発行に協力
2006年 3月	なまら便利なバスマップ初版発行	11月	講座「これからの札幌圏の公共交通機関について考えよう！」開催(道立市民活動センター協働講座)
11月	第4回パートナーシップ賞受賞、NPO法人認証		
2007年 6月	なまら便利なバスマップ第2版発行	2011年 1月	なまら便利なバスマップ第6版発行 在札被災者支援「さっぽろの歩き方」発行
7月	えき・バスナビ&バスマップ使い方講座開催(札幌市等と共催)		
11月	「札幌公共交通おでかけ講座」開催(道立市民活動センター協働講座)		
2008年 6月	なまら便利なバスマップ第3版発行((公財)秋山記念生命科学振興財団助成、(一社)北海道開発技術センター協力)	2012年 1月	なまら便利なバスマップ第7版発行
8月	交通バリアフリーサポート事業(実施主体:NPO法人NPO推進北海道会議)	2月	冊子「公共交通で札幌のイトコ発見しよう！」(4編)発行
		3月	交通まちづくりシンポジウム開催
2009年 3月	名称変更(旧名称:交通倶楽部ゆうらん)	10月	名称変更(旧名称:交通まちづくりコンソーシアムゆうらん)
		2013年 2月	交通まちづくりフォーラム(第10回全国バスマップサミット in 札幌)開催
8月	なまら便利なバスマップ第4版発行 身障者との外出体験講座(実施主体:NPO法人NPO推進北海道会議)	2014年 1月	なまら便利なバスマップ第8版発行
		12月	なまらイカしたバスマップ公開
12月	なまら便利なバスマップ第5版発行	2015年 6月	なまら便利なバスマップ第9版発行

2 情報発信

(1) なまら便利なバスマップ

札幌市営バスが複数の民間バス事業者に委譲された後、「各交通事業者の路線図はあるものの、全ての交通機関が一枚にまとまったものがない」という札幌市総合交通対策調査審議会が出された意見を機に、企画提案を行い、制作・発行を始めたものです。

札幌市の公共交通網を一元化したロングセラー「なまら便利なバスマップ」 ～ “あったらいいな” を企画提案、数々のアイデアを盛り込んで発行を継続～

都心直行と地下鉄接続のバス路線をわかりやすく表現

【交通機関】	都心直行 <番号に枠有>	地下鉄駅接続 <番号に枠無>
・北海道中央バス（中）		
・ジェイ・アール北海道バス（J）		
・じょうてつバス（J）		

札幌市内全域と周辺の公共交通路線図で、バス(6社)、地下鉄、路面電車、JRの全てを網羅。

2006年より毎年1万部を制作し、2014年からは協賛広告により発行。市民のみならずさまにご活用いただいております。

停留所の位置を実態に即して表記



観光地にはイラスト入りで行き方等を表記



【該当業務】

札幌市元気プロポーザル事業「なまら便利なバスマップ」制作業務（札幌市／平成17年度）、「なまら便利なバスマップ第2版」制作業務（札幌市／平成18年度）。以後、秋山生命記念科学振興財団（平成20年度）の助成、（一社）北海道開発技術センター等の協力により、企画・制作・発行を継続。

詳細な路線一覧表を掲載

路線名	番号	運行区間	運行本数のめやす		備考
			平日	土日祝	
手稲線	5 5	J R札幌駅（エスタ）一宮の沢駅前→富丘→手稲駅南口→手稲営業所前	★★	★★	
	◆5 5-1	手稲営業所前→手稲駅南口→西宮の沢5条2→J R札幌駅（エスタ）	※	—	朝のみ運行。
	◆宮5 5	手稲営業所前→手稲駅南口→富丘→宮の沢駅前	※	—	朝のみ運行。
手稲山線	5 7	J R札幌駅（エスタ）一宮の沢駅前→富丘→手稲駅南口→手稲山	★★	★	

初版発行時からお問合せを多数頂戴しております。特に、ダイヤ改正時期になると発行に関するお問合せを多くいただいておりますが、協賛広告やクラウドファンディングを駆使するなど、毎回、発行財源が安定しないため、定期発行をお約束できる状況にはありません。

また、「企業とNPOの第4回『パートナーシップ大賞』（主催：NPO法人パートナーシップサポートセンター）」にて、この取組がパートナーシップ賞に選ばれています。

これらをきっかけに、他市町村の公共交通路線図制作のアドバイスや、おでかけガイドブック等の制作も行っています。



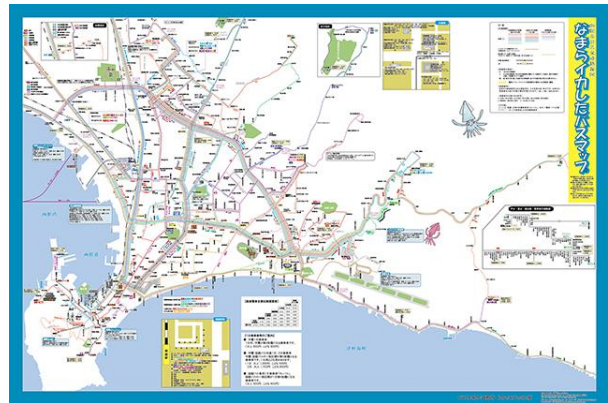
「パートナーシップ賞の楯」

(2) web

Web による情報発信においては、ホームページ (http://www.yourun.net/) や Facebook (https://www.facebook.com/Npoyourun) を活用し、当団体に関することをはじめ、主に道内の公共交通に関する話題やユニークな取り組みなどをご紹介しています。

ホームページには、団体概要の基本情報のほか、「福祉と交通」、「環境と交通」、「お得なきっぷ」等のテーマを設けて掲載しており、現在のアクセス数は1日200人程度ですが、夏休み等の長期休暇時期にアクセス数が増える傾向があります。

また、ニーズがあるものの印刷費の確保が難しい路線図等は、「なまらイカしたバスマップ」(例：函館市の公共交通路線図)などを自主的に制作し、PDFにより公開しています。



「なまらイカしたバスマップ(通称:生イカ)」

3 調査・研究

移動に関わる課題は多岐に渡りますが、特に調査・研究に力を入れているものとしては、以下のとおり「交通バリアフリー」に関するものがあげられます。

道内初「交通バリアフリーサポート」を実施

～バス停調査を皮切りに、身障者とのお出かけ体験を実施。移動制約問題を実践的に研究～

- 「身体障がい者のバス利用状況改善のためのバス停周辺環境調査事業」(2007年)
〔概要〕札幌市内の3つの国公立病院を結ぶバス路線の停留所333箇所を調査。
 - 「障がいのある方やのりばに迷われている方のための交通バリアフリーサポート事業」(2008年)
〔概要〕8月上旬の10日間、JR札幌駅周辺において、主にバスの乗降介助や各交通機関ののりばに迷われている方などのサポートを実施。(道内初)
 - 「身体に障がいがある方の自立生活を支援するために、公共交通機関を用いて外出を体験する講座の開催事業」(2009年)
〔概要〕障がいがあっても気軽にお出かけしたい方とお出かけの介助をしてみたい方の“つなぐ場”を目的として実施。
- 実施主体：NPO法人NPO推進北海道会議



◀札幌駅前にて、目的地までの行き方をご案内するサポーター

▼研修を受けた介助者と共に外出する車いすユーザー



今後は、スペシャルトランスポート(STサービス)や、過疎地における移送サービスなども視野に入れていきたいと考えています。

4 その他

(1) コンサルティング

公共交通に関する知識を習得する場は少なく、専門家と呼ばれる方々の出身は、工学、商学、文学等と多岐に渡っています。それと共に、公共交通を見る目は、法体系や補助制度などの専門知識に加え、利用者の視点が大変重要ですが、これも一朝一夕に習得できるものではありません。現在の事例や最新の事例は、インターネットにより誰でも収集できるようになりましたが、過去の事例を踏まえて現状を認識し、未来を見据えるには相応の“力”が必要です。長きにわたり、公共交通をはじめとする人々の移動を見つめてきた全国各地の交通系 NPO にはその力があると思っています。

当団体においても、各地の移動手段を再編する際などは、各種事例収集や現地調査、一般路線、市町村運営バス（コミュニティバス）の路線やダイヤの再編案作成、公共交通の利用促進企画の立案等を微力ながらお手伝いさせていただいています。

(2) 他団体との連携

全国には交通系 NPO がいくつもあり、イベント等を通じて連携を深めています。同 NPO は、仙台市、新潟市、東京都、福井市、岐阜市、和歌山市、岡山市、広島市、松江市、高松市、那覇市等に拠点を置き、毎年1回程度全国バスマップサミットというイベントを開催しています。

第10回は当団体が核となり、札幌市を拠点とする交通・まちづくり系団体で実行委員会を組成して開催し、全国各地から約200名の方にお越しいただき、熱い議論を交わしました。

このほか、前述の一部の団体を核として、書籍「バスマップの底力」（絶版）を分担執筆させていただきました。

また、現在、「さっぽろサイクルラボ」（事務局：（一社）シーニックバイウェイ支援センター）に参画させていただき、自転車を活用した札幌のエコ観光に関する事業にも取り組んでいるところです。

この事業では、ベロタクシー（自転車タクシー）、公共交通と自転車の組合せ、サイクルシェアのポロクルを活用し、環境に配慮して観光を楽しめるモデルコースの策定を目指しています。

このほか、当団体の正会員が所属する分野が、環境、子育て、福祉等、多岐に渡っていることもあり、同種の団体による連携に留まらず、分野の垣根を越えた取組みを図っていこうと考えています。



▲「交通まちづくりフォーラム（第10回全国バスマップサミット）」（2013年2月）の様子



▲「公共交通を用いた自転車のモデルコース」の様子（定山溪温泉街にて）

5 むすびにかえて

多くの市民は公共交通に対するちょっとした不満程度なら、直接わざわざ事業者に苦情を言ったりしないようです。その代わりに、私たちがマップを作っている様子を見て、「これこれ、これが不便だね」などと不満を漏らされることがあります。NPOには気軽に話しやすいということがあるようで、公共交通機関がさらに使い勝手が良くなるために、このような意見を集約して関係者に伝え、良い方向に転換されればと思っています。

また、政策提言できる力もつけて、説得力のある内容を示せればとも考えています。例えば、札幌のような大都市であっても、ソウル市のように複数の交通機関の運賃を一体的扱う方法や、過疎地輸送においては、スイスやイギリスでポストバスという名称で運行している貨客混載方式が切り札になる可能性を秘めているなど、既に様々な事例があります。これらをはじめとする公共交通の利便性向上策などを、法整備や経済効果なども含めて研究し、具体的な提言を行っていきたいと考えています。

環境負荷の低減、健康の維持・増進など、公共交通の利用促進による効果は多岐に及ぶほか、超高齢社会を見据え、障がいのある方をはじめとする移動制約者における移動の質の向上も重要な課題です。

今後も多様な課題に向き合いながら、より効果的な活動の方法を日々検討しながら実践してまいります。

【団体基本情報】

住 所	〒064-0808 札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 市民活動プラザ星園 405 号		
T E L	011-533-5657	D-FAX	020-4662-3453
E メール	yourun@yourun.net	URL	http://www.yourun.net
理 事 長	松本公洋		
理 事	東田秀美 (NPO 法人 旧小熊邸倶楽部 理事長) 佐藤 隆 (NPO 法人北海道ふるさと回帰支援センター 理事長) 原 文宏 ((一社) 北海道開発技術センター地域政策研究所 所長)		
監 事	瀧谷和隆 (NPO 法人 エーピーアイ・ジャパン 理事長)		